

平成 29 年 1 月 24 日

南の風 217

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

昨年の暮れに、U-15 トップエンデバーの女子ヘッドコーチ鷲野 鋭久氏が横浜に見えました。プライベートのクリニックでした。中学とミニの指導者が約 25 名、中学生女子選手とミニバスの選手併せて約 30 名の参加がありました。

内容は、下記の通りです。(以下鷲野氏の考えを書きます。)

- 1 教育者・指導者としての心構え (ティーチングとコーチングの違い&躰)
- 2 目的と目標について
- 3 Duelとは・・・SkillよりもWill
- 4 PRACTICEにおけるSDDL
- 5 オフェンスにおける3人目の動き
- 6 ディフェンスにおける『させない5原則』
- 7 攻防の総合ドリル『ペイント内の3対2』

まず1についてです。teachingとは『教えること』、『～させる』、どちらかという強制的であると言えます。対してcoachingとは『指導すること』、「サポートする」どちらかという導き・指し示すこととなります。ですからcoachingとは、主体の比重が選手により多く掛かっているのです。≪**もともとcoach=馬車ですから、選手を目的地に連れていくと言う意味でもありません。**≫ ≪ ≫は藤原の考え。

ですからバスケットボールのコーチは、教育者と指導者の両面を持つことが必要になります。そして、バスケットボール競技を通して『自立』した人間を育てることになるのです。また『躰』は、し続けること、すなわち「身に沁み込むまでやる」ことが必要となります。

2については、目標とは『・・・大会で優勝すること』など具体的なものです。一方目的とは、目標に向かって『努力することで培われること』になります。≪**目標は全国大会出場。目的とは目標を達成したい理由。例えば、「自分が自立するため」または、「チームや仲間のためにがんばる」などです**≫ ≪ ≫は藤原の考え。

- 3 鷲野氏は、『Duel』ということをよく言います。Duelとは、直訳すれば「バトル⇒戦う」ということとなります。狭義的には1対1の身体のぶつかり合いを指します。サッカーの全日本監督のハリルホリッジ氏も『Duel』を大切にしています。ルーズボールをマイボールにする。あるいは、コンタクトプレイに強くなることを求めるのです。鷲野氏は、『球際』の大事さを伝えるために『Duel』ということを常に言います。また、『SkillよりもWill』ということを強く訴えています。読者の方も聞いたことがあると思います。技術(技や形)よりも意志、意図、在り方、何のために、が重要だと説きます。選手に指導する時に、形だけを教えるのではなく、『何のために』にやるのかということの大切にしているのです。

4以降は次号にします